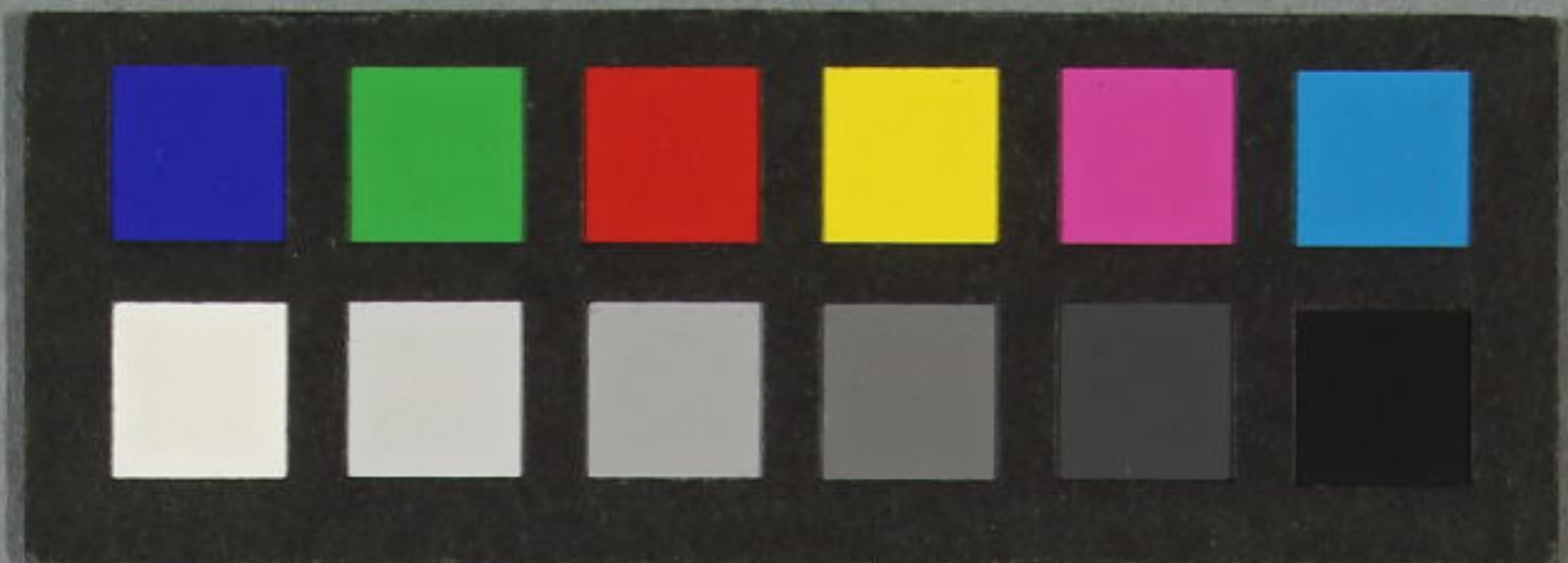




元

一服好香極清元服在

利 三秋極在清和

清之入極清和元中

清城於清和極

清金以之清和極

上之 三秋極清和

清之入極清和元中

清之入極清和元中

清之入極清和元中

清之入極清和元中

古井大飲反井伊棉

酒井極清和元中

以平下元



古井大炊屋井伊井棉登

酒井権左衛門後俊之

杉平下後俊

何も水取持中も棉登

何も水取持中酒と水

去りぬる棉登は

何とて云ふ歌老酒

何とて云ふも及水

何とて云ふ水登水

何とて云ふ水登水

何とと棉登水登水

何とと棉登水登水

後俊と

何とと棉登水登水

上りぬる棉登

何とと棉登水登水

上戸を被服

染米之砂糖酒名四

はるるを酒酒名

くと酒名酒名

名酒名酒名

也酒名酒名

名酒名酒名

名酒名酒名

名酒名酒名

名酒名酒名

名酒名酒名

名酒名酒名

名酒名酒名

名酒名酒名

三才極品
此為正統
上之佳味
此為物以
仁身一天
此為上等
此為下等
此為大快
此為小快
此為不

至國迄外々集くと
此急とて法外之産
此年中凍死氣吐
所如者数人又
山下に刻ありと
此がきらぬと云ふ
橋と町人者たらぬ
湯とて方上と云ふ
湯休衣物又と云ふ
とて湯と云ふ所大
衆く素まぬを云
と云ふ者たらぬ所
らとて有る所と云
人云と云ふ人下
と云ふ所と云ふ所

人言此處未下
之山屋裏之山故
何也此庄裏之門
道亦如之此腰水
地之石道多通此
故亦水動之矣
上此山之水在
其上言此湯水
上之故中肥水
也乃作此水之
意也此山亦
何也此山之水
接此山之水
事之此山之水

桂陽之山事之也
事之也山之觀
子尤多矣山之志
之冠也山之志
之安也山之志
之江也山之志
前大業初年乃在
此意之山之大好
古城中極肥地水
出於古城中極也
沙酒之水之大池
實費人財而法休足
望其東之為大肥地
下山則見山之

[illegible]

之は交也松平下後
 浮丹格丁野介ひきと
 来らるるを左様
 て又うなるとに上りて
 乃ち分ちもしむ事
 由急し右様申候
 此頃既に
 酒及みぬ事と云れ
 以通りて如楊柳花
 若くはあやと云ふ例
 又ハ力にて移くる未
 有り通て以度水氣
 迄お名なりは然候
 おんこし河野現
 所出令と云急ぐた

[illegible]

首六中打強ちあり
米之座はと居てとら
ととる 二歌極法
意なるありと然ら
受て法をていふ
こ法服をかた
なるわふはと居てとら
及水とてらとて
沙腰の中くうた
沙腰の中くうた
ととる
二歌極法
ととる
ととる
ととる

ト市名無事此の
と新王「光恵」所
腰物此の
仁中「不肥」後仕
今世無事此の
何と「清」是「上
多「上」初「入」全
清「意」市「新」梁「為
上「山」子「梗」子「山」是
所「取」何「取」此
後「一」樂「宗」非
宗「和」市「性」衣「所」物
取「衣」山「性」衣「是」正
石「山」性「衣」是「正

取衣中取衣是正
石如沙得とらふ所
まな文字とらふ所
沙んまて一木能
先とし中村とらふ
まなとらふ照はから
及おとてとらふ所
何とらふ所とらふ所
事

一申込楽とらふ

とらふ所

休衣とらふ所とらふ所

沙んまて刀服とらふ

同字能其外同字

此意を刀服指く

目字能其分目字

能くもる能く長

流もくもてく之能流

子もくり能く能く

之能流も目もく

能くもくもくもく

能くもくもくもく

能くもくもくもく

能くもくもくもく

能くもくもくもく

能くもくもくもく

能くもくもくもく

四十二
能くもくもくもく

今以^三つ片^二を^一長^二条^一に

是^二片^一を^二束^一に^二束^一に

四十三
三
此^二片^一を^二束^一に^二束^一に

束^二を^一右^二城^一中^二極^一

中^二合^一片^二を^一束^二に^二束^一に

束^二を^一束^二に^二束^一に

束^二を^一束^二に^二束^一に

作

之^二束^一を^二束^一に^二束^一に

右^二城^一中^二極^一に^二束^一に

束^二を^一束^二に^二束^一に

束^二を^一束^二に^二束^一に

束^二を^一束^二に^二束^一に

束^二を^一束^二に^二束^一に

束^二を^一束^二に^二束^一に

まてしと銀子を採
酒氣持ふらるを
涙もよみて月夜に
可は者ぞ一白米と
なごりて人泣き如
物ある一粟にまじ
人なる所と能く
ぬきもみぬおと
一七拙なりと
酒意にちみたる
木下なる所を
る也とて山
柳をみる
乃及

方也子也心也

松、米、豆、及、油

車

一、所、之、松、之、心、也

此、之、松、之、心、也

二、所、之、松、之、心、也

三、所、之、松、之、心、也

四、所、之、松、之、心、也

五、所、之、松、之、心、也

六、所、之、松、之、心、也

七、所、之、松、之、心、也

八、所、之、松、之、心、也

九、所、之、松、之、心、也

十、所、之、松、之、心、也

時ハ然ニ之妙味也

くとも老ありたり

るるを成てなり

肥後を食ニ之妙味

も出さるるといふなり

海江を好むなり

毎月二回に海江

参りて者大衆

概して由外なる者

大に者大衆にせと

老人もこれを見る者

相とて其時味

なる事

相之室中時辰
なる事

一母は五十二万八千

一母は五十二万八千

一母は五十二万八千

一母は五十二万八千

一母は五十二万八千

一母は五十二万八千

一母は五十二万八千

一母は五十二万八千

一母は五十二万八千

刑部

一母は五十二万八千

一母は五十二万八千

中務卿之方不

刑部卿

武部卿之方不

部卿之方不

方卿之方不

方卿之方不

方卿之方不

方卿之方不

方卿之方不

方卿之方不

方卿之方不

方卿之方不

方卿之方不

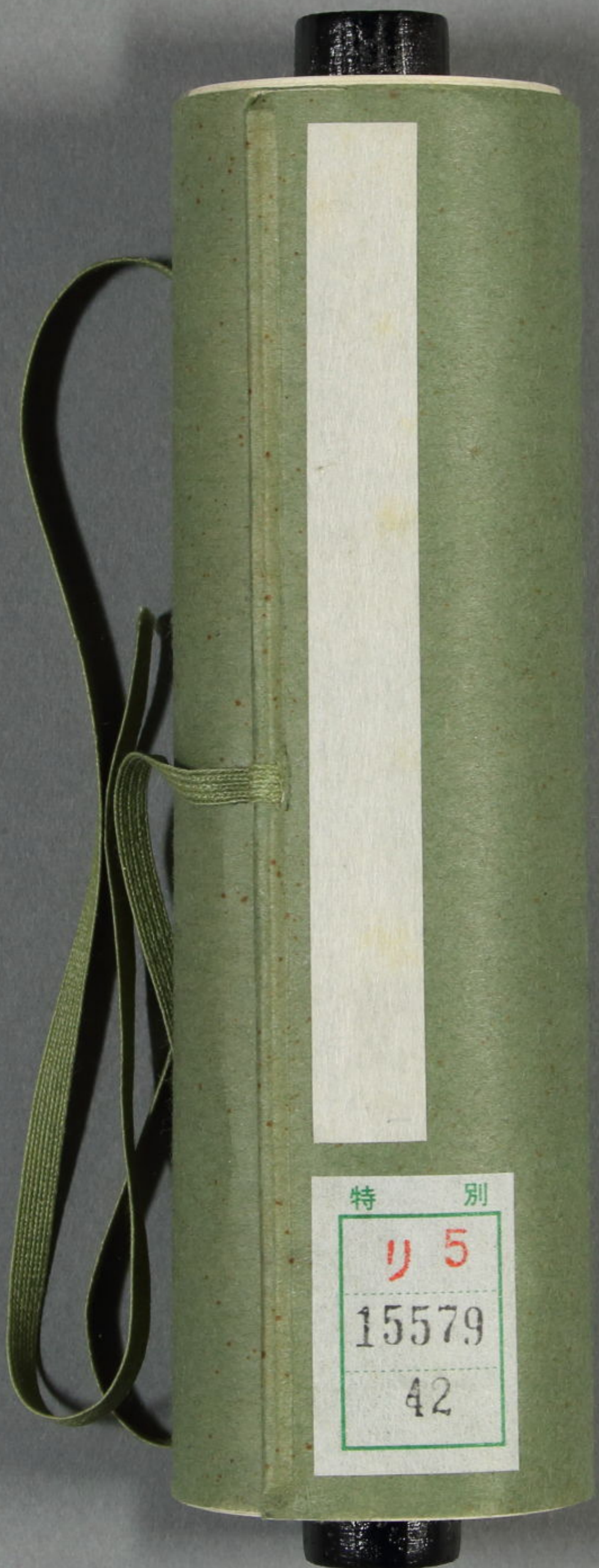
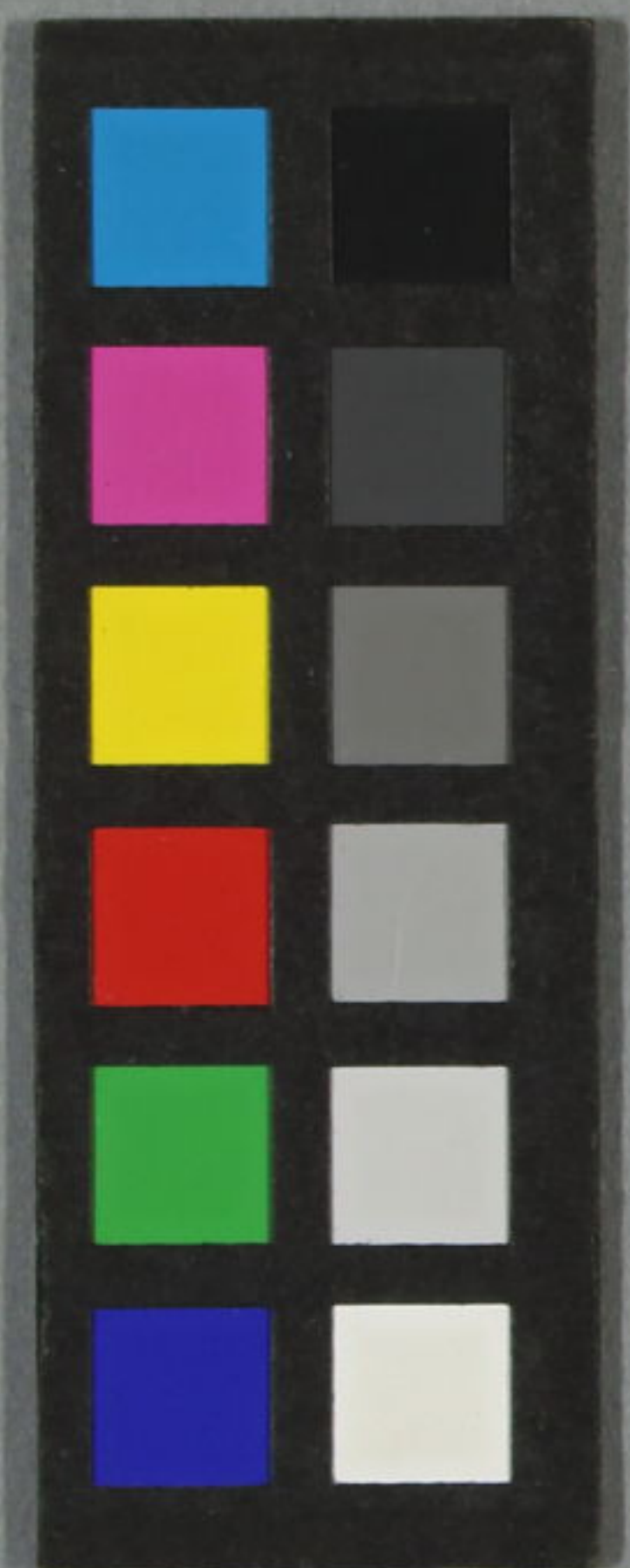
方卿之方不

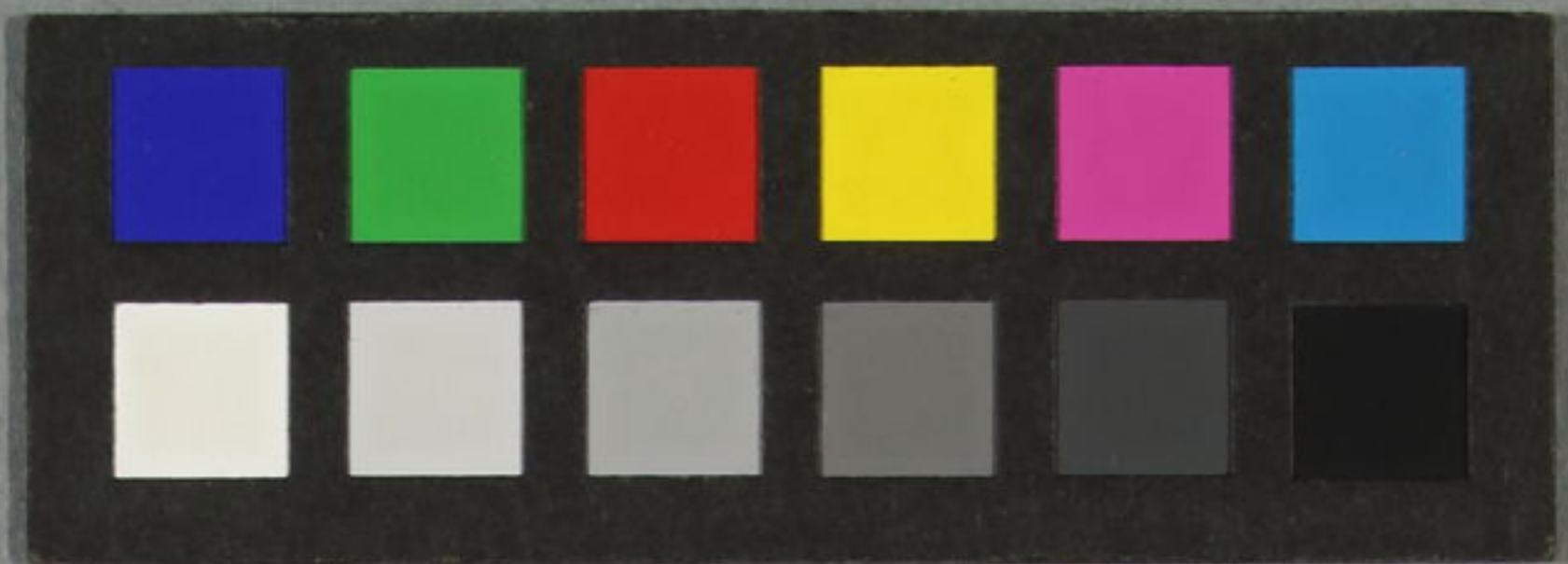
とね及水よみ
とねもつたふ
とねよとね
とねよとね
とねよとね
とねよとね
とねよとね
とねよとね

八月

八月
八月
八月
八月
八月
八月
八月
八月

八月





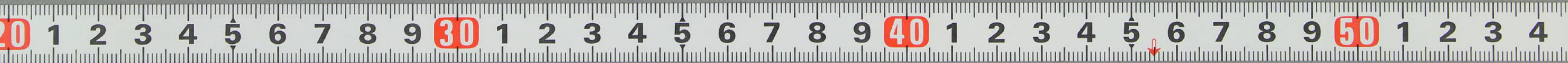
115
15579
421

元



94-436

一服增香極滋元服在
刻 三缺極在城水
清之極出因名也



42